

氏名： 杉野 勇 (SUGINO Isamu)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 社会学修士 (1992、東京大学)
職名： 講師
専門分野： 理論社会学、法社会学、社会調査
E-mail： sugino.isamu@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

民事紛争／ワーク・ファミリー・フィット／社会調査／社会階層
civil dispute / work family fit / social survey / social stratification

◆主要業績

総数（４）件

- ・杉野勇，2007，「就労上のトラブルにおける相談行動と接触行動——民事紛争全国調査データから」，日本社会学会第 80 回大会（於：関東学院大学），2007 年 11 月 17 日，『第 80 回日本社会学会大会報告要旨集』p. 38.

◆研究内容 / Research Pursuits

日本法社会学会初の大規模標本調査プロジェクトである民事紛争処理実態調査研究に携わり、司法についての当事者ニーズ研究の一環として新たにウェブ調査も実施した。小田原パネル調査におけるワーク・ファミリー・フィット研究や「社会階層と社会移動全国調査プロジェクト」(SSM2005)における女性のライフコース・ライフスタイル研究に引き続き従事し、SSM2005 の最終報告書の 1 分冊の編者として研究をまとめた。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の社会学の入門的講義では、コミュニティにおける規範、評判、インフォーマル・サンクション、社会資本といった基本的な社会学的視角、弱い紐帯の理論、予言の自己成就や準拠集団論、社会的ジレンマなどの代表的な社会学説・社会学理論を解説した。社会調査についてのメディア・リテラシーについても例示した。演習においては、不平等と経済学的メカニズム、比較研究の方法論的考察、民事訴訟法の経済分析などをテーマとして、経済学や法学など隣接諸科学との接点を重視しつつ学習を行った。社会調査法の授業では、調査票の作成からデータ収集と計量分析までの全プロセスを年間を通じて実施した。大学院の演習では、Case Study Research を重点的なテーマとして取り上げ、アメリカの標準的なテキストの精読及び日本における応用研究の検討などを行った。

◆研究計画

- 1) 民事紛争処理についての実態調査の分析・研究（紛争の発生メカニズム、雇用問題）、
- 2) ワーク・ファミリーフィット研究のパネルデータ分析と共に縦断的分析を行う。
- 3) 「第6回社会階層と社会移動全国調査」のデータ分析、
- 4) 少子高齢化に関する大規模全国調査の企画（現在申請中）

◆メッセージ

私たちは、しつけや教育などの「社会化」を経なければ、きちんとした「社会人」になれません。その意味で「規範」や「常識」を内化することはとても重要です。しかし同時に、そうした規範や常識を対象化してよく考えてみることも極めて重要です。自分達の手が直接届く範囲の割合はますます小さくなり、メディアなどによる情報や疑似体験に否が応にも巻込まれざるを得ない。その中で、経験的・実証的な証拠や事実に基づいて、かつ論理的・分析的に思考をするということの重要性は強調し過ぎることはありません。他方で、規範や常識、趣味嗜好の社会的定式は、自分のアイデンティティと呼ばれるものを形成する要因でもあります。社会の理解と自己の理解が不即不離であることの淋しさと面白さを共に実感することが大切です。